

Q これからの女性にエールを  
お願いします。

今の状況では女性が消極的にならざるを得ないのが現実で、目立てば陰口を叩かれることもあります。残念ながら、必ずしも女性が味方ではない場合もあります。でもこれからは、女性は本来に強くならないといけないと思いません。時には愚痴をこぼしてもいいから、世の中に対して働きかけ、「言っても分からない。」じゃなくて言ってみて、変えたいんじゃないでしょうか。



私は、「今までやってきたこと全てが役立つ」と思っています。今の私があるのも、夫の理解と協力があってから。今までは女性は男性に支えてもらっていましたが、これからは経済的にも自立して、行動しながら仲間をつくってスキルあげること。そうした中で精神力も上げる、というのが目標です。他者を認めて、自分の行動にも責任を持ちましょう。自分とは違った他者がいてこそ、その会が活発になるのです。

人口の半分は女性で、女性の方が長生きですよ。ですから、女性もきちんと考えを持って、意見を述べて行動することが大切です。社会に働きかけて進化しましょう。女性が自分自身を生かす、本当の力を持ってほしいですね。

(取材：有吉、堀江)

## フラットな世界に遊ぶ



すぎやまひさこ  
杉山久子さん(山口市)

俳人・平成25年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞

Q 日常生活で男女の  
差を意識されたことは  
ありましたか。

私自身は小さいころから、外に出て何かをすることが苦手でした。幼稚園に行くことも嫌で途中で帰ってしまっただけもありました。そのまま成長して就職したのですが、女性ばかりの職場で、男女差というものを感じる経験

はあまりありませんでした。ただ、職場で煙草を吸う男性社員のために灰皿を掃除させられるのは嫌でした。

Q 俳句の世界に入る  
きっかけは何でしたか。

ある日、「句会」の様子を書いた文章を目にしたんです。それがとても楽しそうで、発表された作品も「なんだ、こんなのでいいの」と思うようなものでした。これは楽しそうだなと思い、俳句の会に入ってみようと思いました。当初は、まったく俳句のことなど知らなくて、俳句の会を指す俳句結社と聞いた「何々結社」とかい言葉が、とても不気味だと思ってしまったのです。それで、郵便でのやり取りという俳句会があったので、それに加わって活動を始めました。始めて見ると、俳句を作ることも楽しかったですし、俳句を作るためにいろいろなどところを見て歩く吟行というのがありますが、それにもどんどん参加していくようになりました。